



日本地理学会サマースクール 2024

主催：日本地理学会 後援：国土交通省国土地理院

地理学は能登半島地震をどのように捉えるのか

趣旨

地理学は地域の自然の営みとそこに暮らす人の関わりを多角的な視点から考察する科学である。令和6年能登半島地震では、活断層が引き起こした地震で発生しうるほとんどすべての自然現象と、地域が抱える課題が複合したさまざまな様相の被害が発生した。地理学はその多角的な視点を生かして、この災害を総合的に理解するためのさまざまな取り組みを行っている。このサマースクールでは、地理学がこの災害にどのように取り組み、地域の復興のために何ができるのかを具体的な事例学習や技術実習を通じて理解した上で、地理学の役割について議論する。

対象：地理関連分野に関心のある大学生・大学院生。地理に関心のある高校教員などの参加も可。

開催日時：2024年8月30日（金）13:00～17:30

会場：学校法人立命館東京キャンパス（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー8階）

定員：対面：20人、オンライン（第1部のみ）：30人

参加費：無料

プログラム

第1部（対面・オンライン）

13:00 開会挨拶

13:10～13:40 「能登半島地震の発生メカニズムおよび被害の状況」
（お茶の水女子大学 宇根 寛）

13:40～14:30 「珠洲市の被災状況と復旧・復興の取り組み」
（珠洲市役所 杉盛 啓明：オンライン参加）

（休憩10分）

14:40～16:10 ワークショップ：地理学的思考による空中写真を用いた被害状況判読
—斜面崩壊と津波浸水域の判読実習（国土地理院 中埜 貴元）

第2部（対面のみ）

16:10～17:20 ディスカッション・発表

17:20 閉会挨拶

申し込みフォーム→



問い合わせ先：日本地理学会企画専門委員会

ajg.summerschool@gmail.com

